

平成 28 年度 宮城県仙台第二高等学校アメリカ研修報告書

◆八日目 : 7 月 31 日 (日)

時間	報告
05:30	集合／再度部屋のチェック、鍵返却後、朝食
06:30	専用バス（2 台）にてフィッシャー・カレッジを出発
07:00	ボストン・ローガン空港着
09:20	国内線にてニューヨークへ
10:30	ニューヨーク（ラガーディア空港）着
	専用バスにてニューヨーク（マンハッタンエリア）見学研修へ
12:00	メトロポリタン美術館見学（～14:10）
14:45	グランドセントラル駅にて昼食
16:00	国際連合本部ビル前にて写真撮影
16:50	バッテリーパークから『自由の女神』眺望
	タイムズスクエア周辺など、車窓より
18:10	ホテル着
18:40	現地で活躍する日本人ゲストとの懇談（食事会 ～21:00）
22:00	諸連絡後、解散
	<p>【追記】</p> <p>早朝 5 時 30 分、ねむい眼をこすりつつ、全員元気に集合。昨晚もこれまでの研修について、あるいは研修後のことなど仲間と語り、あまり寝ていない生徒もいたようでした。</p> <p>一週間お世話になった「フィッシャー・カレッジ」に別れを告げ、バスはボストン・ローガン空港へ出発。ボストンでのあつという間の時間を振り返りつつ、乗り込むやいなやほぼ全員が爆睡。ほどなくして空港に到着しました。お世話になったプログラム・ディレクターの Maddy とは、ここでお別れ。生徒を代表して、男子生徒から感謝の英語スピーチが送られました。胸に手を当て、彼を見つめながらとても嬉しそうに聞き入る Maddy と、空港の喧騒にところどころかき消されながらも、しっかりと伝えようとする彼の姿は印象的でした。</p> <p>その後、空港での諸手続きを滞りなく終え、飛行機はほぼ定刻にボストンを出発。無事ニューヨークに到着いたしました。皆「機内での記憶がほとんどない」というほど、深い眠りについていました。</p> <p>さて、ラガーディア空港に降り立った生徒たちは、早速専用バスに乗り込み、一路マンハッタン島へ向け出発いたしました。最初の研修地は、「メトロポリタン美術館」、圧倒的な迫力の外観と荘厳な雰囲気のエントランスを目の前に、生徒たちは歓声と共にバスを降りました。前半に英語ガイドによるツアー（2 グループに分かれて、45 分）、その後自由見学にて約 2 時間 15 分ほど、その膨大な展示品数からすると決して満喫とはいえないのですが、それぞれに目的にしていた作品だけは見る事ができたようです。</p> <p>その後、1913 年に完成、豪華な大理石の床と古典主義ボザール様式の圧倒的な荘厳さと美しいコンコース及び天井を有する「グランド・セントラル駅」にて遅いお昼をとりました。1 時間ほどの後、バスは「国際連合本部ビル」へ（写真ストップ）、そして遠くに「自由の女神」を臨む「バッテリーパーク」（写真ストップ）、そしてグラウンド・ゼロ、タイムズスクエア等マンハッタンエリアを縦断し、18 時過ぎに滞在ホテルへ到着いたしました。</p>

さて夜は、いよいよ全プログラムの締めくりとなる、ニューヨークで活躍される「仙台第二高校 OB の皆様との懇談（食事会）」が催されました。日系商社勤務を経て、ニューヨーク州弁護士として活躍、現在は NY の地元情報誌で執筆もされる「仙台二高ニューヨーク同窓会支部長」の巨氏。起業され経営者として活躍される一方、二高時代の合唱団指揮の経験を活かし、その後さらに活動を幅を広げ、現在はここ NY で合唱団指導、ご出身の東北大学「萩友会」の会長も務める、白田氏。日本企業（旅行業）の米国法人 NY オフィスに勤務される福永氏。そして、IT、法律、金融などの分野のフリーランスの翻訳者として活躍され、また白田氏とともに合唱団やゴスペルなど音楽を通じた文化交流事業にも尽力されている蓼原氏の 4 名に、お越しいただきました。仙台二高の先輩が海外、ここ NY で活躍されていることへの驚きと憧れを抱きつつ、懇談をすすめるなかで、彼らの高校時代の話、そしてこれまでの紆余曲折を経てきた足跡にふれ、会の終盤では自分たちが将来活躍する舞台の一つに海外の選択肢が、より現実的に加えられた生徒も少なくなかったようです。それは、単に海外への憧れからということではなく、厳しい環境に敢えてチャレンジをして自分を高め、可能性を切り開き、自己実現をしてきた先輩方のその気概にふれたことで、得たものでしょう。さらに自分に限界を決めず自身で将来を切り開けるという自信というか、楽しみというようなものを二高生徒たちが囲むテーブル上で感じたからだと思います。ボストンでの葛藤の日々のなかで自分を見つめ、仲間と共有してきた一週間があったからこそ、今日の先輩方との時間が本当に意義のあるものになったはずです。

先輩方との別れを惜しんだ後、翌日出発時、及び空港での諸注意を伝え、解散となりました。が、その後ある女子生徒からはたらきかけで、「このまま終えたくない。研修の振り返りと、失敗をそのままにしないため、研修で得たことを帰国後に活かすために話し合いたい」と、そのままミーティングを実施いたしました。一番の目的は、「チーム全体の意識差（最後まで温度差があったと感じていたようです）をなくしたい、研修の目的を共有できていないのであればその子たちを変えたい」という強い考えからでした。日々の日記の中でも、このような違和感に触れていた生徒は少なからずいましたが、なかなか声をあげられず、あるいはミーティングでいくらかふれても、表面的な改善論で終わり、本音のはなしにはいたらなかったため、やり残しを日本に持って帰りたくない、という思いからでした。食事会場で続けられたそのミーティングは、終わる気配なく会場がクローズ後は、ホテルの一室に全員が集まり、気づけば日をまたぐほど続けられました。生徒の体調面を考えて、ほどなくして解散となりましたが、本音がぶつけられたゆえに答えはまとまりませでしたが、これまでのミーティングとは比べられないほどの思いと気迫も感じられ、この時間こそが大切なものになったと強く感じました。

明日は、有志が早朝 5 時に集まり、ホテルほど近くのコロンバスサークルで、アメリカでの研修最後、なにか足跡を残してくる予定です。

以上、報告とさせていただきます。

《フィッシャーカレッジ出発》



《メトロポリタン美術館にて》



《仙台第二高校ニューヨーク NY 支部の皆様との懇談会》





《成田空港到着》



《仙台到着》

